

(1) 昭和50年1月1日(毎月1日・15日発行)

No.405

1月1日号

市報

さが

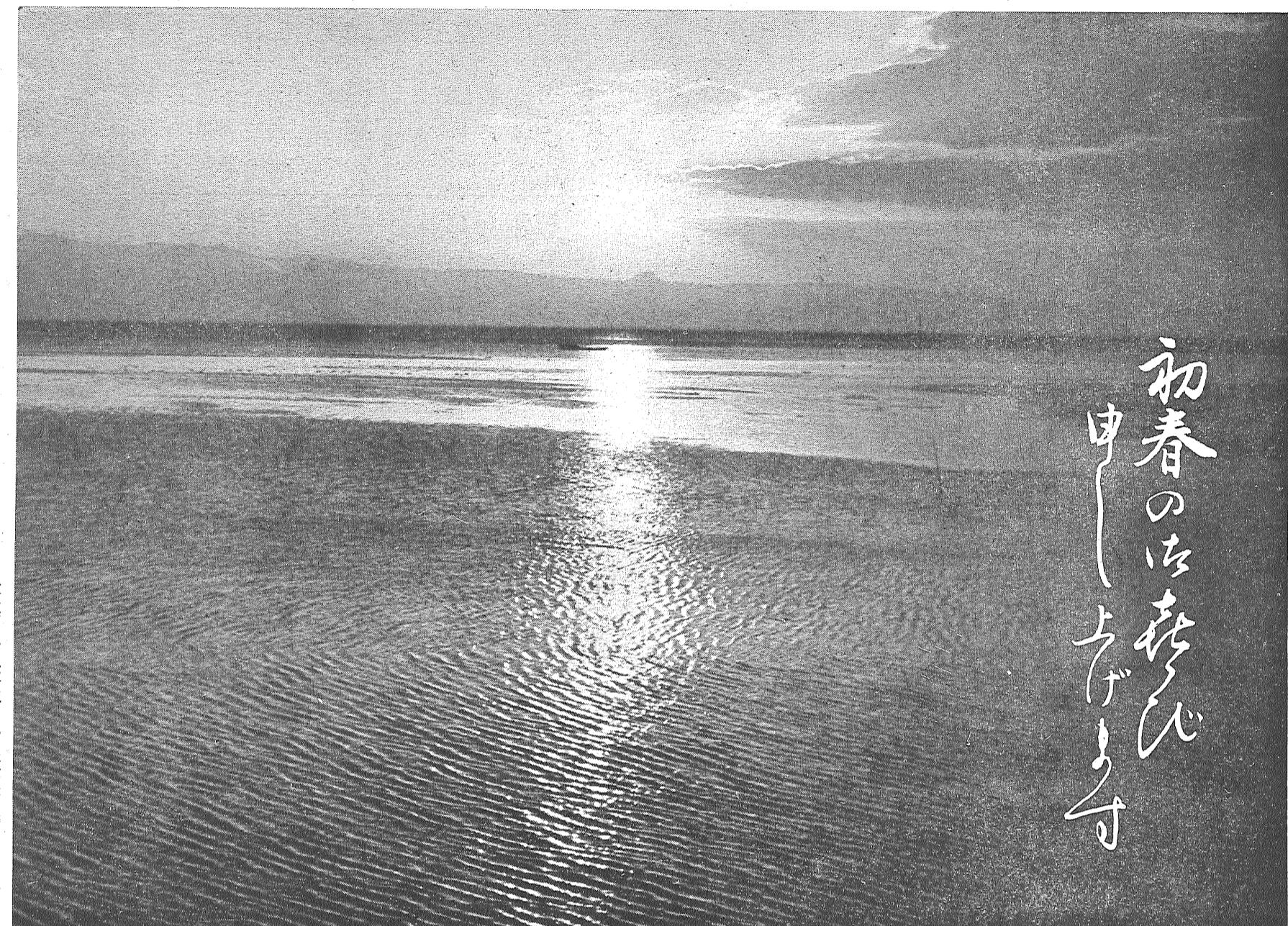
(昭和26年2月24日)
第3種郵便物認可

発行所 佐賀市役所
発行人 市長公室長
(定価3円)
電話代表(4)3151番

佐賀市の人口
12月1日現在 前月比
人口 152,832 +176
男 72,311 + 82
女 80,521 + 94
世帯 44,850 + 81

初春の佐賀へ
ゆきよだよす

写真=井上博之さん(本庄町溝口)提供



昭和五十年の輝かしい新春を迎えて、謹んで新年のお喜びとあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、旧年中、市政に対して一方ならぬご協力を賜り、誠に有難うございました。心から厚くお礼を申し上げます。昨年は、国の総需要抑制策に対応して、緊縮財政を堅持しながら諸事業を推進してきましたが、皆様方のご協力のお陰で、まちづくりの基礎となる排水対策事業、都市計画街路事業、公共下水道事業、神野土地区画整理事業等も順調に進んでいます。また、市民生活に直接影響のある引き続きの施策、すなわち、住みよい生活環境づくりや社会福祉の向上、さらには親しみやすい市民の窓口としての庁舎の建設等に取り組んできました。

昨年十二月、新しく三木内閣が誕生しましたが、なんといっても現下の最大課題は、日本のみならず世界各国が直面しているインフレ、物価対策であります。そのため、本年も総需要抑制策が続けられ、現在の引き締め基調が堅持されるものと思います。

私は、昭和五十年の年頭に当たり、現在のこの緊迫した社会情勢をふまえ、国の施策に呼応して物価安定対処することが急務と考えており、市民生活の安定のため

昭和五十年の新春を迎え、十五万市民の皆さんへ、心からお喜びを申し上げます。

佐賀市も市制施行約百年の年輪をつくりました。それ以来、佐賀平野を中心とした文化や経済の中核都市として発展いたしましたのでございます。近代都市構造のため、三次にわたる町村合併によって市域も十倍以上に広がり、新生佐賀市として、年々発達の一途をたどり「清らかな水と緑の木々」に囲まれた福祉都市づくりに努力いたしております。

戦後の経済は異常な発展をみましたが、反面大きななにぎりをもたらすとともに、人間本来の精神を荒廃せしめた悲しい現実がみられます。特に油ショック以来予測もしなかった日本経済は、ますます迷路ばかり、政府もいろいろとあの手この手を考え努力を続けておりますが、意の如くならず、物価の安定もいくらかさざ波となつたといつても台所をおひやかしていることは誠に悲しむべきことじつこれを打開することが当面の課題であります。

元来、私達日本人本来の姿は勤勉と努力をモットーとしており、混亂する状勢を克服し、人間の住みよい環境整備、市民誰しもが安心して生きられる福祉政策、生活向上には、こんな身の力をいたすべきであり、今年こそ祖国の栄光を信じまい進すき、「年」でありましょう。

昭和の初めから五十年間の動乱時代を顧みて、天の利

佐賀市長 佐賀市長

宮田虎雄 宮田虎雄

昭和市議会議長 佐賀市議会議長

立石仙一郎 立石仙一郎

小野田少尉 救出のドラマが国内外のみならず世界にセンセーションを巻き起こしましたが、私は、単に神がかり的な奇跡として受け取るのではなく、人間として一貫した信頼の強さ、たくましさ、心と心の戦い、自然と体の戦い、あらゆる苦難を克服したその偉大さに感激いたしましたのでございました。救出した青年・鈴木紀夫君の行動も実際にみあげたもので、特に「難魔」の本を座右の銘として、ひとときも肌離さず携行していたと聞き、佐賀市民として強く近親感を覚えました。私は感動のあまり両君と両親に親しく面談いたしましたが、いろいろ伺っている中で両君の難事克服の不屈の心と子あり」としみじみ感受したのです。

二十世紀の国の大い手は今の児童であり、青少年でありましょう。人づくりは家庭教育をはじめ学校や社会教育にまつところが大きいと思いますので、國も自治体も大幅な教育投資を惜しまず市民の育成に努めべきだと信じます。

今年は卯の年で、兎は昔から瑞兆として佳き事の起こる年として重宝がられております。

